

さいたま市長 3 月定例記者会見

平成 2 2 年 3 月 5 日（金曜日）

午後 1 時 3 0 分開会

○ 進 行 それでは、記者クラブの皆様、定刻となりましたので、ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

 幹事社の朝日新聞さん、進行のほうをよろしくお願いいたします。

○ 朝日新聞 3 月の幹事社の朝日新聞です。よろしく申し上げます。

 市長からの発表事項について、ご説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。本日の議題は 2 件でございます。

 それでは、議題 1、「市民参加による事業の実施について」ですが、本日、しあわせ倍増プラン 2 0 0 9 でお示しした基本姿勢のうち、市民、事業者、行政の 3 者がみずからの責任を果たし、地域、さいたま市全体の課題とともに考え、ともに行動していく、「責任と共感」を具体化した事業を 2 つほどご紹介をしたいと思います。

 まず初めに、「西大宮駅北口駅前広場に設置をします絵タイルベンチについて」ご説明をいたします。昨年 3 月に開業いたしました西大宮駅では、北口駅前広場の整備に際し、区民参加によるまちづくりが実践されております。これまで、西区区民会議の提案による「西区らしい風景をイメージさせるシンボルツリーの設置」、「四季の彩りを感じさせる花壇の設置」などが実現されたところでございますが、このたび「子供たちの手による絵タイルをあしらったベンチの配置」が実現されることになりました。

 この事業は、子供たちにとって新しくできた西大宮駅が、将来にわたり自分のふるさとの駅として親しみが持てるよう、P T A 協議会西区連合会のご協力をいただきながら実施されたところでございます。

 絵タイルは、西大宮駅近隣の指扇小学校、指扇北小学校、県立大宮北特別支援学校の多くの児童・生徒の皆さんにより作成をいただき、8 基のベンチに 6 4 枚の絵タイルが組み込まれることになりました。3 校の共通のテーマは設けず、それぞれ自由な発想で図案を作成していただき、温かみのあるかわいらしいものや、西区の自然、風景などを描写したものなど、

広場を広く利用される市民の皆様の心が安らぐデザインに仕上がっております。

絵タイルの設置作業も順調に進んでおりますが、こういう形(パネルを指差し)で進められてきました。3月14日の日曜日、午前11時から、現地におきまして設置記念式典を挙行いたします。当日は、子供たちによります絵タイルの張りつけセレモニーも予定をしておりますので、よろしくをお願いをしたいと思います。

続きまして、「第1回見沼たんぼクリーン大作戦を実施します！」についてご説明いたします。見沼たんぼは、首都近郊の貴重な大規模緑地空間であり、豊かな自然が残され、農業者の営農努力によって現在のような緑地空間として保全されてまいりました。この見沼たんぼの環境を守り、現状を多くの方々に知っていただき、さらにはこの環境を保全するため、見沼たんぼで活動しております市民活動団体や市内外の多くの方々とともに、今回初めて大規模な清掃活動を行うものでございます。

日時は、平成22年3月14日、日曜日、大宮アルディージャのマスコットキャラクターの「アルディー君」や、さいたま市PRキャラクターの「ヌゥ」も参加をして午前9時30分より出発式を行い、清掃開始ということになります。

主催は、「見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク」、通称「見沼たんぼ市民ネット」になります。こちらの組織は、見沼たんぼでさまざまな活動しております市民活動団体とさいたま市が、見沼たんぼの魅力を周知するとともに、見沼たんぼをかけがえのない環境資産として次の世代へ継承するため、協働により市が開設をいたしました「見沼たんぼのホームページ」の運用及びホームページを活用した有効な情報発信と各種活動を行うことを目的に、平成19年11月に設立されました組織でございます。現在18の市民活動団体が参加をしております、今回の清掃活動のほか、各種イベントを開催いたしております。

清掃活動の実施場所につきましては、「見沼たんぼ市民ネット」に参加をしております各市民活動団体の活動場所周辺と、本部会場といたしました合併記念見沼公園、ここは合併記念見沼公園になりますけれども(パネルを指差し)、ここが本部で、あとは、これは活動している中心の場所ですね。

これに分かれまして、一斉に行わせていただく予定でございます。

一般参加者の募集につきましては、見沼たんぼのホームページや市報などで、1月4日から2月5日の期間で募集を行い、多くの方々からお申し込みをいただきました。一般参加者につきましては、応募の際、各市民活動団体の活動場所と本部会場とを選んでいただいております。

また、周辺の自治会や企業にも参加を呼びかけましたところ、本清掃活動に賛同いただいた多数の団体よりお申し込みをいただきました。これら自治会、企業につきましても、本部会場はもとより各市民活動団体の活動場所へのご参加をいただくこととなっております。

今回の清掃活動は、「見沼たんぼ市民ネット」として初の試みではありますが、今後とも引き続き実施し、見沼たんぼの環境保全に役立てていきたいと思っております。今後とも、多くの方々に見沼たんぼを知っていただき、その保全・活用・創造に向けまして、ご理解、ご協力をいただくとともに、市民のかけがえのない環境資産として、市民・事業者の方々とともに大切に守り育て、後世へと伝え、「子どもが輝く「絆」で結ばれたまち」に向けまして、全庁を挙げて取り組んでまいりたいと思っております。

以上の2つの事例のほか、岩槻区におきましても地元自治会のご協力のもと竣工する街区公園整備事業がございます。こちらの公園につきましては私からではなく、本記者会見終了後、午後3時から記者室におきまして、整備に当たりご苦勞をされました自治会の方々から直接皆様にお話をさせていただくことといたしましたので、よろしく願いをいたします。

続きまして、議題2、「日進駅橋上化及び北口の開設」についてご説明をいたします。

川越線日進駅の南北自由通路設置・駅舎橋上化工事の進捗に伴い、平成22年3月28日から南北自由通路と橋上駅舎の一部を供用開始をしたいと思っております。

日進駅南北自由通路設置・駅舎橋上化工事につきましては、平成20年度に工事の着手、その後も工事も順調に進捗をしたことから、3月28日の日曜日の始発から、南北自由通路・橋上駅舎の一部供用開始によりまず北口開設の運びとなりました。

今回供用開始となります南北自由通路・橋上駅舎は、高齢者や障害者の

方々が安全、快適に利用できるように、エレベーターやみんなのトイレを設置するなどバリアフリー対応とともに、自由通路では電力消費量の低減に向けLED照明を積極的に採用するなど、環境にも配慮をいたしております。

この日進駅につきましては、これまで南口のみので平地駅であったため、駅北側にお住まいの方は駅東西の踏切を渡らなければ駅を利用できなかったこと、また鉄道により地域が分断されていたことなどから、地元では駅の橋上化に向けました「まちづくり協議会」が発足するなど、橋上化による北口開設について、以前から大変強い地元要望がございました。

そのようなことから、今回の北口開設につきましては地元の意見を採用するため、設計当初から地元のまちづくり協議会との意見交換会を開催するなど、官民協働により事業を進めてまいりました。この北口開設により、駅北地区はもとより、日進地区の安全性、利便性の向上と駅南北地区の交流促進が図れるとともに、今後のまちづくりを進める上において非常に有効であると考えおります。

なお、この北口開設を記念し、3月27日、土曜日に関係者にご出席をいただき、日進駅橋上化北口開設記念式典を開催いたします。

また、当日の午後2時から4時まで、一般の方を対象に施設内覧会を開催いたします。当事業は地元との協働により進めてまいりましたので、内覧会では地元の協力によるイベントといたしまして、日進餅つき踊りの実演や配付、お囃子、ミニSSL、風船プレゼント、さらには自由通路内に七夕飾りの飾りつけなど、盛りだくさんの催しを予定をいたしておりますので、市民の皆様にもたくさんお越しをいただきますよう期待をしております。

以上で私からの説明は終わらせていただきます。

- 朝日新聞 市長からの発表事項について質問のある社はお願いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

見沼たんぼのクリーン大作戦なのですけれども、これまでこれほどの規模の見沼たんぼを清掃する活動というのはあったんでしょうか。

- 市長 そうですね、これだけ大規模ということでは恐らく初めてということになりますけれども、緑区とか、あるいは見沼区とか、それぞれ地域ごとに

こういった活動はされていたと伺っていますけれども、大規模なものとしては、しかもたくさんの市民の団体の皆さん、それから企業も参加をするという意味では初めてということになると思います。

○ 朝日新聞 いかがでしょうか。特になければ、幹事社からの質問に移らせていただきます。

幹事社からの質問は2問あります。2問あわせてお願いしますので、あわせてご回答をお願いします。

先日さいたま市消防局の救急隊が、生存していた男性を過って死亡と判断したという問題が発表されましたけれども、原因の詳細な検証とかをその後実施しているのかどうか。また、対策として新たに取り組んだりとか、取り組む予定のある内容というのはありますでしょうか。それが1点と、もう一点につきましては、市長の政策の柱である電気自動車の普及についてです。

新年度の施政方針の中で、「日本をリードする環境先進都市を目指す」とありますけれども、その柱の電気自動車導入の1月21日からほぼ1カ月余りがたちました。北本市では新年度から、土曜、休日はカーシェアリングとして市民に利用してもらう制度を始めますけれども、さいたま市はそういった制度を導入する予定はないのかどうか。

あと、もう一点について、導入した10台については、一般の公用車に比べてより高価なものであるということで、有効利用すべきだと考えますが、1カ月間の稼働実績、特に人が集まるような土、日とかです、稼働例があるのかどうか、1月21日から1カ月間の稼働実績についてお伺いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○ 市 長 それでは、幹事社の代表質問にお答えをしたいと思います。

まず、一番最初の救急隊の件でございます。原因の検証につきましては、消防局内では救急業務等検討委員会におきまして当該救急活動の検証と再発防止策の検討を、局外におきましては救急病院の医師、保健所等の関係者で構成をされます「中央地域メディカルコントロール協議会」の「救急活動医療事故等対策検討委員会」におきまして医学的見地からの検証を行っております。

対策としまして、救急活動基準の一部改正を行う予定であり、既に指示

をしてあります、傷病者を死亡と判断する際には2人で観察をすることや心電図測定を行うことなどを明記し、その際のチェックカードを新たに作成いたします。

また、観察や接遇等の研修について基本訓練を取り入れるなど、研修内容を精査し、再発防止に取り組んでいるところでございます。

続きまして、2つ目の電気自動車の普及についてのご質問でございますが、北本市において実施をされますカーシェアリングについては、報道等を通じまして承知をいたしております。本市におきましても、持続可能な事業としてカーシェアリング実施に向けました課題等について、現在事業者と検討を行っている状況でございます。

今回導入した電気自動車は、青色防犯パトロール用に、市が公用車として導入したものでございまして、市の名称、区の色など防犯効果を高める意図もあり、専用のデザインを施しているという状況でございます。この車両をカーシェアリングの貸し出し用と併用することにつきましては、市民から見てパトロールのための運行と区別がちょっとつきづらいののではないかということなどの課題もあり、現時点では実施を考慮はしておりませんが、今後土・日等に自主防犯パトロールグループなどに貸し出すことなどについては、まだ解決をしなければいけない課題なども、幾つかございますので、そういったことも十分検討、精査をしながら検討していきたいと思っております。

北本市の場合はですね、カーシェアリング事業者が導入した車両を、市が平日優先的に利用して、休日等に市民に貸し出す事業ということでございまして、この考え方については十分理解できるわけではありますが、今回導入した車両は防犯用にデザインも施しているというような状況でございますので、カーシェアリング用の車としてはなかなか適しにくいものになっております。

また、来年度、今審議をしていただいておりますので、そういったことが可決をされたらということになりますけれども、今後予定されている電気自動車の導入に当たりましては、北本市などの導入事例なども参考に研究をしていきたいと考えております。

次に、今回導入した10台の稼働状況についてでございますけれども、

10区平均をしまして、稼働日数は15.4日ということですね。走行距離は301.6キロメートル、開庁日に対する稼働率は67.0%となっております。土曜日、日曜日の活用につきましては、中央区におきましてコンサートを開くときに啓発のために展示を行った事例がございました。

今回導入をしました電気自動車は、青色パトロール用の放送を行ったり、あるいは青色のランプを点灯していたりする以外は、走行時にほとんど音が出ないというような状況がございますので、まず職員にこういった電気自動車の特性を理解して、なじんでいただくようと啓発に努めているところでございます。稼働率については、徐々に増えていくものと考えております。

また、土曜日、日曜日の活用につきましては、当面区の行事やイベントの際に展示をするなど、青色パトロールについての理解、区の色に対する親しみ、また電気自動車に間近で接する機会の提供などの用途で用いたいと考えております。

今後も電気自転車の普及啓発に向けましては、E KIZUNAプロジェクト協定に基づきまして、協定先の事業者と連携をしながら、試乗会の開催あるいは電気自動車教室の開催など、市民が身近で、見て、さわって、楽しめるような、そういった機会を増やしていきたいと考えております。

以上でございます。

- 朝日新聞 ありがとうございます。
 幹事社からの質問は以上です。幹事社からの質問につきまして、質問のある社がありましたらお願いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
 救急搬送の関係なのですが、対策、原因の究明についてはわかりましたけれども、当日搬送された方について特異な症状等はあったのでしょうか。
- 事務局 警防部の救急課です。
 搬送された方ということは、傷病者のことでよろしいでしょうか。
- 埼玉新聞 ええ。
- 事務局 この方は搬送された後、病院の中では右の脳に脳出血がございました。
 以上です。

- 埼玉新聞 脳出血のほかには特異なことはなかったんですか。
- 事務局 はい。特には異常はないということで医者の方から聞いております。
- 朝日新聞 現状はどうなっているのでしょうか。
- 市長 現状の症状ですか。
- 朝日新聞 現状、はい、もう退院したとか、そういった。
- 事務局 現状につきましては、退院をしたということで伺っております。
- 日本経済新聞 日本経済新聞です。
EVのカーシェアリングの可能性についてなんですけれども、今その来年度予算の審議してもらっていて、今後予定している分のEVに関してはカーシェアリングを検討していきたいということですよ。済みません、具体的にあと何台というのは決まっていますか。
- 市長 今予算として計上させていただいているのは11台だったですね。12台？。
- 事務局 12台。
- 市長 済みません、12台。
- 日本経済新聞 予算案が通ると、この12台というのはいつ導入ということになるんですか。
- 市長 車種によって秋口から発売されるものもございますので、基本的には秋口ぐらいの状況になるのではないかと思いますけど、まだ使い方等について、大方もちろん用途は検討はしているわけですが、そういった事例なども踏まえて、最終的には使い方を検討していきたいと思います。
- 産経新聞 済みません、産経新聞と申します。
消防の件なんですけれども、関係者の処分というのはまだ下ってはいないのでしょうか。
- 市長 現状としましては、3月の中旬にですね、こうした検討委員会のほうからですね、報告、検証がなされるというふうに聞いておりますので、それを踏まえた上で厳正な対応をしてみたいと思っております。
- 朝日新聞 済みません。検討委員会というのは、救急業務等の内部の検討委員会になるか、それとも中央地域メディカル何とかというところなのか。
- 市長 これは、(局内は)救急業務等検討委員会ですね。(局外は)中央メディカルコントロール協議会ですね。

- 朝日新聞 その委員会が3月中旬に結論を出すという。
- 市 長 ええ。それらを踏まえまして、局内で消防職員分限懲戒等審査委員会というものを開かせていただきまして、それで内規に照らした上で厳正に処分をすると、こういう手続になります。
- 埼玉新聞 済みません。カーシェアリングの関係なんですけれども、電気自動車のカーシェアリングを実現するに当たって課題って何かあるんですか。例えば車の保険が高いとか。
- 市 長 そうですね、そういったこともございますけれども、あとは充電、ある程度充電をして、また次の方にお渡しをしなくちゃいけないという部分だったり、あとは今私たちとしては、事業者の方々と、カーシェアリングの事業をどういうふうに進めていくかということで議論をさせていただいているわけでありまして、予約の仕方、それから取り消しの仕方といった手続の問題、あるいはICカードなど決済をどういうふうにしていくかというようなことだとか、カーシェアリングをしていくための企画、仕組みづくりというのを、もうちょっと検討していく必要があるのかなと思っております。
 また、今申し上げましたとおり電気自動車という特性からの課題としては、充電の問題ですね、充電をある程度完了させていってからお渡しするということになると思うんですけども、そうすると急速充電器の設置場所が当然必要となりますので、そういった部分との連携等課題が幾つかございますので、それらを研究をしながら仕組みづくりをしっかりと行った上で実施をしていきたいと考えております。
- 埼玉新聞 現在EVの稼働率が67%ということですけども、これは普通に使って67%なんですか、あるいは充電等の時間がかかるので、残りの33%を使えないということなんでしょうか。
- 事務局 交通環境課でございます。
 今のところ、電気自動車の本来の使い道であります防犯パトロールのほうを中心に運用しております。区によって少し違うんですが、毎週2回ほど子供たちの下校時に使用しているという形になっております。あとは、事務連絡等に、使わせていただいています。
- 埼玉新聞 目いっぱい使って67%ということ、充電の時間が過重になって67%

限界ということなんでしょうか。

- 事務局 夜間電力を使っていますので、充電の限界ということはないです。
- 日本経済新聞 週2回しか使っていないくて、稼働率67%になるんですか。
- 事務局 週2回というのは、子供たちのための交通防犯パトロールのために2回使っておりまして、それ以外には事務連絡ですとか、そういった形で使っております。
- 日本経済新聞 その事務連絡というと、どういようになりますか。
- 事務局 例えば本庁等の行き来ですとか、そういった形に使っております。
- 日本経済新聞 もったいない気がしますね。
- 朝日新聞 さっき言った土、日は、その中央区のコンサート以外にも余り活用例はないというふうに考える。
- 市長 現状としては、余りまだないということですので、そういう意味ではまだまだ稼働率が十分でないと思いますので、今後稼働の仕方についても各区ごとに検討してもらってやっていきたいなと思います。
- 朝日新聞 南区役所通ると、何かずっととまっていて、奥のほうにとまっているんでPR効果もないし・・・。
- 市長 多分奥のほうにとまっているのは、多分充電の関係ですかね。
- 朝日新聞 ああそうですか。
- 市長 ええ。充電場所の関係も多分あるかもしれません。
- 朝日新聞 幹事社質問について、以上でよろしいでしょうか。
じゃ、それ以外のご質問について各社お願いします。
- 共同通信 共同通信と申します。
3月28日にオープンする盆栽美術館の入館者の目標人数を教えてください。
- 市長 入館者の目標人数、担当来ていますかね。
- 事務局 来ていないです。
- 市長 申しわけございません。それについては後で・・・。
初年度ですか、それともオープンの日ですか。
- 共同通信 初年度という意味です。
- 市長 わかりました。それじゃ、後ほど。
- 共同通信 それから、この盆栽美術館は、前市長のときにですね、発案されたもの

ではあるんですが、この盆栽美術館をこのほど稼働される、その意義について市長から改めて語っていただきたいんです。

- 市長 そうですね、この盆栽文化というのは、さいたま市にとっても他市とは違う大変特色のある文化であると思っておりますし、さいたま市から世界に発信をしていくという意味でも大変重要な役割を果たしている文化であると思っております。その中で、この盆栽美術館は、さいたま市の持つ盆栽文化をまさに世界に発信をするためのシンボリックな施設になると思っておりますので、この盆栽美術館だけではなくて、周辺にあります盆栽園、あるいは周辺のいろんな施設と連携をさせながらより多くの国内外からの観光客の皆さんにぜひ来ていただいて、有効に活用していきたいと思っております。
- 共同通信 ありがとうございます。
- 朝日新聞 具体的な有効活用の策というのは、何か考えておられますか。
- 市長 要するに来ていただくだけじゃなくてという意味ですね。
- 朝日新聞 ええ。
- 市長 盆栽美術館に来ていただくだけではなくて、やはり周辺の盆栽園さんとの連携だとか、周辺の鉄道博物館を含めたさいたま市の観光施設と連携をさせることによって、いわゆる経済的な効果も高めていきたいと考えておりますし、かなり海外の方々も含めて注目をしていただける施設になると思いますので、それらをさいたま市の観光の一つの大変大きな施設として経済波及効果あるいは周辺の文化の振興、それから産業の振興などにも役立てていきたいと考えています。
- 東京新聞 済みません。東京新聞、水越ですけども、私の記憶で申しわけないんですけど、たしか初年度は5万人を目標と聞いていたんですけども、それでさえ収支、支出が収入を上回るって聞いたんですけども、そのためにどういったPRとか指示をされているのかということ。
- 市長 1つは、先般も東京都内で記者会見をさせていただいたりもしましたけれども、そういう意味では非常にさいたま市内あるいは埼玉県内という小さな範囲だけではなくて、全国的にあるいは世界的にも大変ユニークな公共の盆栽美術館としては初めてということになりますので、そういう意味では大変注目される施設になると思っておりますので、盆栽美術館単体だ

けの収支ではなくてですね、その地域に及ぼす経済波及効果あるいはさいたま市のイメージアップ等々さまざまな形にいい効果を上げていくように情報発信も含めてやっていきたいなと思っております。

先般もさいたまシティカップに韓国の総領事が来ていただきましたけど、そのときもこの盆栽美術館のお話をさせていただきました。韓国あるいは中国などにもこういった盆栽に近いような、文化がやはりあると聞いておりますけども、大変関心を示しておりましたし、こういった在日の大使館などにも働きかけをして、いろいろ海外からの観光ツアーであったり、国内のそういったツアーの中にぜひ組み込んでいただけるように働きかけをしていきたいと思っておりますし、またあとですね、まだお土産だとか、お弁当だとか、食とか、そういったお土産みたいな部分がまだちょっと弱いところがありますので、今地元の方々も含めていろいろ検討をさせていただいておりますので、そういった部分についてもいろいろ開発をさせていただいて、来てくださった方がいろんな形で満足していただけるような環境づくりをしていきたいと思っております。

ですので、盆栽美術館単体で採算をとるというよりは、経済波及効果あるいはイメージアップ等総合的に勘案をして、それ以上の効果を上げていくということが重要だなと思っております。

- 東京新聞 お土産とか食というのは、その美術館で売るものではないんですね。
- 市長 美術館でもミュージアムショップのスペースございますので、そこで売れる物と、あと美術館の中では売れないけれども、周辺のお店なんかで売ってもらえる物なども含めて開発をしていきたいなと、連携をとっていきたいなと思います。
- 東京新聞 それは、28日までに間に合いそうなんですか。
- 市長 間に合うものと間に合わないものがあると思いますけれども、現状としては一部ミュージアムショップの商品は間に合うと思いますけど、十分な品ぞろえまではいっているかどうかというのは、なっていないと思います、その点に関しましては。
- 産経新聞 済みません、土チャレがとうとう始まったと思うんですけども、現状で24年度中までに163校ですか、実施するにはこういった課題があると、始まったばかりなんですけども。

- 市長 そうですね、私も先週岩槻の柏崎小学校にお邪魔させていただきまして、様子も見てきました。それで、柏崎小学校で立ち上げてくれた学校地域連携コーディネーターの方々を含めて地域で中心的にやっている方々とも話をしてきましたけども、1つは、やはり講師、教えてくれる人の継続的な確保ということが重要であると思いますし、あと私自身感じたのは、この学校地域連携コーディネーターの役割ですね。この学校地域連携コーディネーターが大変重要な役割を果たしていて、学校の校長先生、教頭先生とのつなぎ役はもちろんですけども、地域の皆さんとのまさにつなぎ役、絆を結ぶ中心的な存在なんですね。ですから、この学校地域連携コーディネーターの能力を高めていくということが大変重要かなと思っておりまして、最初にスタートします12校のコーディネーターの皆さん、それから来年度一応予定としては30校ということで予定をしておりますけれども、そういったコーディネーターの皆さんのいろんなノウハウを次の段階で始めていく学校の連携コーディネーターの方々にしっかりとつないでいくということと、あとやはり独自でそういった研修というか、情報の共有化みたいなこともしっかり図っていく必要があるなと思っております。
- 産経新聞 それに関連してですね、大分その市民側の負担が重いという声の一部から上がっているようなんですけども、これについてはどのように考えられていますか。
- 市長 これは、学校と家庭と地域のきずなを結んでいく上で、私は超えていかなくちゃいけない幾つかのハードルの一つだと思っているんです。今、教育については、学校の教育力、地域の教育力、家庭の教育力が落ちてきているというふうに言われています。それを、力をつけていくにはやはりその皆さんのそれぞれの努力と協力ということが不可欠になると思うんですね。その中で、私たちもいろんな形でバックアップは当然していきますけれども、地域の中でこれから起こってくるいろんな課題を乗り越えていく、恐らく3年ぐらい、根づくまでにはやっぱりそのぐらいのある程度の時間はかかってくると思います。その間に、いろんなことが起こると思います。でも、それを超えていくことがきずなにつながっていくと思いますし、地域の教育力のアップにつながっていく、家庭の教育力のアップにつながっていくと思っていますので、これは1年できたから、それがすぐ達成でき

るというものではないと思っていますので、これを継続的にやっていくということが大変重要であると思っています。

- 朝日新聞 済みません。盆栽のことなんですけれども、市長のおっしゃるとおり総合的なイメージアップだとか、単体の採算ではないというのは理解できるんですけれども、一方で、その公立美術館とかの費用対効果って最近厳しく求められていますし、実際に市長やほかの幹部の方も目標を把握していないというのはどういうことなのかというか、逆に目標は達成できそうなのかという、数字を把握していないんで、達成できるかどうかもお答えにくいのかもしれませんけれども、その辺はどう考えてられます。
- 市長 もちろん目標達成に向けて全力を尽くしていくつもりでいますし、きめ細かい広報なども含めて、人事的にもそれなりに対応できるように配置をさせていただこうということで進めておりますので、達成できると思っていますけども。
- 朝日新聞 目標は、改めて、じゃ把握するという。
- 市長 そうですね、はい。
- 埼玉新聞 きょう生活保護の全国統計が出まして、受給者が過去最多となったそうです。さいたま市も1万259世帯、つまり4300人が受給しているということなんですけれども、これを担当するケースワーカーの負担というのが大きくなって、1人当たり114世帯を持つという、平均を上回る負担になっているんですが、さいたま市としては、来年度ケースワーカーの増員というのは予定しているんでしょうか。
- 市長 はい、予定をしています。細かくは、総務局。
- 事務局 総務局長でございますが、ケースワーカーの増員につきましては、議会の審議の中でも多々ご指摘をいただきまして、現在増員の方向で人事配置を考えてございます。
- 埼玉新聞 大体何人ぐらいというのはわかりますか。
- 事務局 厚労省指示が80世帯に1人ということなんですけれども、なるべくその目標に近づきたいということなんですけれども、現状の定員数の中ではですね、効率的な配置、それから他課との連携、それから再任用等の効果的活用等々を見て、今正確に数字は申し上げられないんですが、10人を超えた規模では一応、配置を考えてまいりたいと思っています。

- 朝日新聞 済みません。話ちょっと変わりました、予算編成過程の公開なんですけれども、これはこの前も質問出ていましたけれども、いつごろになりそうなのかということがまず1点と、改めてもう一回、編成作業中に公開せずに、事後公開にしたのはなぜなのかということを変更してご説明いただきたい。それと、あともう一つ、範囲についてですね、和光市なんかは道路とか福祉とかですね、そういったものを市民の関心のあるというふうに言っていて、さいたま市の場合ですと、市長マニフェストだとか総合振興計画だとかということなんですけれども、そこら辺がやっぱり市の恣意的なものにならないかというか、問題ないものだけを発表するというようなことにならないのかという、ちょっと懸念があるんですけれども、その辺はどう考えていますか。その3点お願いします。
- 市長 まず、1点目についてですね、まず時期については、議会が終わった後ぐらいを想定させていただいています。
- それで、真ん中の質問は何でしたっけ。
- 朝日新聞 公開、事後公開にしたのはなぜなのか。
- 市長 これは、もともと事後公開ということで、多分記者会見のときにも私自身は言ってきたつもりでいるんですけど、ちょっと誤解があったかもしれませんが、基本的には今回は、すべての過程が終わった後に、担当部局からの予算要求、それから財政局の予算査定、そしてその基準、そして市長査定、その基準ということについて公開をさせていただくと。それから、あわせて会派からの要望、そしてそれに対する答えも含めて公開をさせていただくつもりでございます。
- それで、3点目ごめんなさい、もう一回。
- 朝日新聞 3点目、公開の範囲が道路とかですね。
- 市長 現状としては、今マニフェスト、あるいは実施計画の重要事業ということで限定を、第1回目としてはしていくつもりでございますけれども、徐々にこれらを広げていこうということは考えております。今回のですべてというよりは、情報公開については徐々に、その範囲等もですね、広げていきたいと考えておりますけれども、その辺、発表した段階でまた皆さんの声などを聞きながら、もう少し道路の部分とかですね、道路の部分については、箇所づきの部分について言うと、これはまた別の形で情報公開を

させていただく形になると思いますので、基本的には主要事業の部分を今回出させていただくわけですが、その内容等については今後拡大をしたいと思っておりますので、来年度に向けて、今年以上にさらに拡大をしていくということで進めていきたいと思っておりますので、とりあえず公開した中で、いろいろ皆さんにもまたご意見をいただきながら、市民の皆さんからの声も聞きながら、公開をしていく事業の範囲を拡大をしていきたいと考えています。

- 朝日新聞 時期とか量とか範囲とかですね、今後改善していくということなんですけども、今の今年の範囲というのは、市長の中では、自分の中では何割ぐらい達成できているというふうに、何合目というか、何割ぐらい。
- 市長 情報公開ということについてですか。
- 朝日新聞 今回の予算編成過程の。
- 市長 そうですね、まだ試行錯誤のところがあると思っています。これからその予算編成過程も、来年度は少し、事業仕分けという形になるかどうかは別として、そういう総点検をしていく過程も少し公開をしていこうと検討しています。ですので、できるだけその予算編成過程をわかりやすく、開かれた形にしていこうとは考えておりますので、そういう意味では、今年は本当にその第一歩中の第一歩だと思っておりますので、来年さらにそのプロセスの公開もしていく、これは市民の皆さんも含めた形で公開をしていくということをやりたいと思っておりますし、その事業の部分についても拡大をしていくと、やり方についてもさらに発展をさせていくという方針で、今検討しているところです。
- 日本経済新聞 公開って、公開しただけだと、ただ単に見せるだけで、例えば公開した後に市民の声をどう反映していくかって、その仕組みが大切だと思うんです。それは、次の予算の編成で、生かす仕組みみたいなものをつくっていかれるということなんですか。
- 市長 そうですね。次のときには市民の皆さんの、事業をいろいろ総点検をしていくところの過程の中で、いろいろご意見を伺っていくという方法も検討していきたいと思っております。それらも詰めて精査をしているところで。
- 朝日新聞 都市経営戦略会議のページのところに、与野都市開発の、議題になって

いたんですけども、特に議事録等はなくでですね、どんなことが議論されたかわかんないんですが、どのように市長は考えておられるんでしょう。

- 市長 その公開の仕方という……
- 朝日新聞 公開の仕方じゃなくて、その会社自体のことについて。
- 市長 与野都市開発については、その前に岩槻の都市振興の件について議論をし、また外郭団体の検討委員会のほうにご議論いただいたわけですけども、与野都市開発についても外郭団体の検討委員会のほうで検討していただいた、また提言をいただいた部分を参考にしながら、都市経営戦略会議で議論をさせていただきました。現状としては、市としてすぐに何か対策というか、公的な資金を導入するとか、そういった部分については、現状としてはまだやる時期ではないと判断をしております、今与野都市開発さんがですね、みずからその辺、いろんな形で進めていただいておりますので、その辺の状況を見ながら、こちらが何か対策が打てる、あるいは打つべき状況、タイミングというものになれば別ですけども、現状としては、市として何かをするということは、今のところ考えておりません。
- 朝日新聞 総務省のほうで改革プランの策定が今年度末までに求められていますけれども、その辺は年度末までに出せるという状況なんでしょうか。改革プランの提示というか、策定は。
- 市長 外郭団体についてですか。
- 朝日新聞 そうです。財政が著しく悪い団体については、改革プランの策定が多分今年度中につくれという話になっていると思うんです。
- 事務局 そのプランにつきましては、年度内で今策定すべく、鋭意努力しております。
- 日本経済新聞 済みません。さいたま新都心の第8 1 A街区についてなんですけれども、事務方の担当者の方たちが、週1でしたっけ、今協議しているところという話でしたけれども、今どんなご議論をされているのか、具体的に教えていただければと思うんですが。
- 市長 現状としては、その事業の枠組みということでもいいですか。
- 事務局 サッカープラザ準備室。協議の状況ですけども、4回ほど協議してまして、現在は事業者のほうから事業計画を、どうやったらいいのかとい

うのを再度つくり直したものを持ってくるということで、今事業者のほうで検討している最中でございます。

以上です。

○日本経済新聞 再度プランをつくり直すということ、事業者のほうから伝えてきたということなんですか。

○市長 やりとりしているんですね。

○事務局 はい。出していただいたものが、ちょっと結構難しい状況ですので、改めて事業計画できる方向で、再度つくって持ってくるということになっています。

以上です。

○日本経済新聞 会議の中では、どんなことを話し合われているんですか。

○事務局 具体的にはちょっとお話しできませんが、その数字的なものが事業者のほうから提示をされています。

○日本経済新聞 例えば開発費用ですか。

○事務局 ええ、費用も含めて。それと、見直したときの面積とかもありますので、そういったものをどうするかというのも話題の中にはあります。

○日本経済新聞 市長のほうから、例えば三菱地所の社長さんとか、ほかの企業連合のトップの方たちに継続をお願いするような、何か面会などを計画されたり、実際にやったとかということはないんですか。

○市長 今後、もう少し内容が詰まった段階で、必要があればやりたいと思えますけれども、現状としてはまだその中身を詰めている段階で、もともとの話は、こういう経済環境の悪化の中で、事業性が大変厳しいということが前提にあって、見直しをしましょうということですから、まずその事業性をどのように高めていくかという、その辺の検証が十分になされていないと、ただやりましょう、やりましょうというだけではなかなか難しいので、その辺の議論はある程度踏まえながら、そういった機会があれば、もちろんやっていきたいと思えますけれども。

○埼玉新聞 話が全然変わるんですけれども、鹿児島県の阿久根市の市長が、現在報道陣がいるという理由で議会を欠席していて、きょうも空転しているようなんですが、埼玉と鹿児島、全く離れてはいるんですが、同じ市長という立場として、阿久根市の市長の態度について大人げないとお考えなんですし

ようか、それとも口うるさい報道陣だと、ある程度心情的には理解できると。

- 市 長 基本は、議会は公開されるべきだと思いますので、個々の利害に絡んだりなんかするケースは、クローズで行われることももちろんあるわけですが、基本は公開されるべきものだと思いますので、その中にはマスコミの方々も含まれるのは当然のことだと思いますので、ちょっと異常な事態だなという感じはしますね。
- 朝日新聞 ほかありますでしょうか。
 じゃ、以上で。ありがとうございました。
- 市 長 どうもありがとうございました。
- 進 行 それでは、以上をもちまして定例記者会見を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

午後2時23分閉会